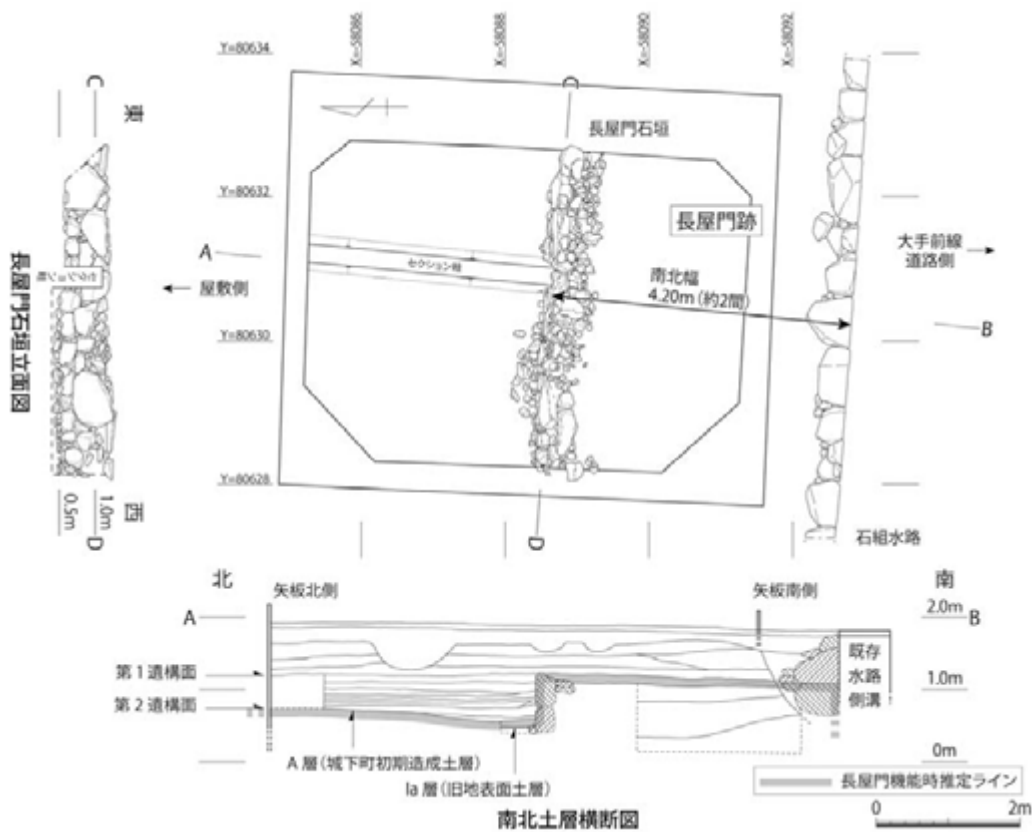


松江城の石垣とも石材・積み方に共通する点が



堀尾期松江城下町絵図(島根大学附属図書館蔵)

母屋を敷地の中程に設け、街路(路地)に面しては、長屋門などの表門や土塀が建ち、裏手は土塀や板塀などで区画されていました。長屋門の石垣は、屋敷側に面しており、これと対となる道路側には、石組み水路の石垣を長屋門の土台として兼用していることが想定されます。東西の規模は不明ですが、南北の奥行きは4.2m(約2間)、松江城の石垣と比較すると規模は小さいですが、石材に大海崎石を利用するなど共通の点もあります。また、割石と自然石をバランスよく利用している点など積み方にも共通点が見られました。



出土品の説明に真剣に耳を傾ける参加者の皆さん



発掘で出土した生活用具

今回提示した計画案の詳細は、「大手前通り(都市計画街路 城山北公園線)」のホームページに掲載しています。
http://www.pref.shimane.lg.jp/infra/road/kikan/matsue_kendo/ootemae/
 街路の計画に関するお問い合わせ、ご意見は、松江県土整備事務所 都市整備課(担当:足立・神田)まで

- 用地・補償に関するお問い合わせ
松江県土整備事務所 用地第三課
TEL 0852(32)5762
- 設計・工事に関するお問い合わせ
松江県土整備事務所 都市整備課
TEL 0852(32)5755
- まちづくりに関するお問い合わせ
松江市役所 歴史まちづくり部 都市政策課
TEL 0852(55)5373

発掘調査現地説明会が開催されました 江戸時代初期の屋敷の建物配置が分かる「長屋門」跡を確認



長屋門跡

長屋門石垣(屋敷側)

長屋門の石垣は、高さ約80cm、長さ6.5m、約1.4m下の地中から発掘されました。

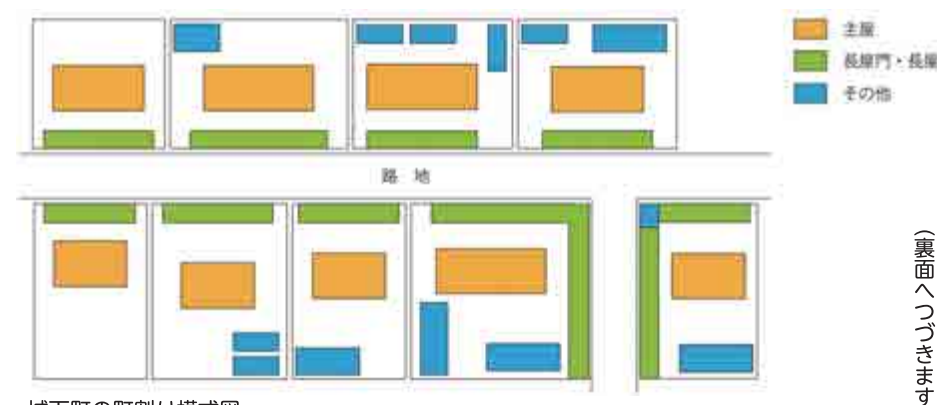


南田町の武家屋敷長屋門(大正時代撮影)



赤穂藩大石邸長屋門(兵庫県赤穂市上飯屋)

城山北公園線1工区の拡幅工事ともない、松江市により行われていた埋蔵文化財発掘調査の現地説明会が5月30日(土)に開催され、参加者103名が真剣に耳を傾けました。今回の発掘場所は、松江城大手前から東に約200mの地点であり、松江城本丸からは直線距離で東南へ約450mの地点、江戸時代には上級家臣の屋敷地となっていた母衣町の一角にあたります。発見された長屋門跡は、見つかった地層から17世紀前半頃のものと考えられています。長屋門とは、屋敷の周囲に家臣(使用人)を住まわせる長屋を建て、その建物に扉をつけて門としたもので



す。石高や階層によって形式が定められていました。松江城下の場合、江戸時代後半の屋敷の配置図は残っているのですが、堀尾氏、京極氏が統治した前半期の配置図は存在していません。長屋門跡が発見されたことで、文献や絵図などに残されていない江戸時代前半の武家屋敷の配置が具体的に分かりました。城下町の町割りは、武家屋敷の(裏面へつづきます)

大手前通りみちだより



発行所
 松江県土整備事務所
 tel 0852(32)5755
 松江市役所歴史まちづくり部 都市政策課
 tel 0852(55)5373



“大手前通りみちだより”はまちづくりに関する最新の情報をお届けします!

